

(別表3)

b. B B IV104号車月別稼動状況並びに燃料油脂消費量実績調査表

調査機械の型式、名称		三菱B B IV型水密アングルドーザー車番号(104)																	
納入年月日		昭和28年1月8日																	
作業開始年月日		昭和28年1月9日																	
年次別		昭和27年度																	
月別	1	2	3	又はは計平均			昭和28年度												又はは計平均
全日数	23	28	31	82	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	304		
運転日数	18	8	24	50	21	18	16	19	26	8	30	(31)	(30)	31	28	31	386		
整備及修理日数	2	15	3	20	7	10	12	11	2	20	(31)	(30)		15	14	14	168		
休車日数	2	5	2	9	0	2	0	0	1	1				7	8	5	91		
公休日数	1	0	2	3	2	1	2	1	2	1	1	1	1	4	3	2	21		
稼働日数率 %	78.2	28.5	77.4	61.3	70.0	58.0	53.3	61.3	83.9	26.6			48.3	45.1	60.8	45.1	58.1		
整備日数率 %	8.69	53.5	9.67	23.95	23.3	32.3	40.0	35.4	6.45	66.6			22.5	25.8	17.8	29.1	29.8		
絶対稼働日数率 %	31.8	28.6	82.7	63.3	75.0	60.0	57.1	63.3	39.6	27.6			53.5	50.0	65.3	50.0	61.2		
時	60.0	20.0	132	212	115	76	62	85	96	34			59.0	61	99	67	970		
実動	9	11		20	18												18		
耕耘	69	31	132	232	133	76	62	85	96	34			59	61	99	67	1,003		
計	30	16	29	75	36	30	27	32	44	13			20	18	21	18	259		
毎日整備	12	125	18	155	42	60	70	66	12	120			42	48	30	54	544		
修理	42	141	47	230	78	90	91	98	56	133			62	66	51	72	803		
計	3	50	3	50	5	30	4	30	4	20			4	4	6	5	4		
1日当り運転時間	1	50	2	0	1	10	1	30	1	40			1	35	30	20	50		
1日当り毎日整備時間	690	310	1,320	2,320	1,340	770	630	850	970	340			600	600	1,000	670	7,770		
軽油(1)																	10,090		
ガソリン(1)																			
モビール(1)	55	45	105	205	130	70	60	85	90	30			60	55	95	65	740		
ギヤ油(1)	5	40	5	50	20	5	5	10	20	5			6	5	15	10	101		
グリス(kg)	6	5	8	19	15	10	5	8	12	3			5	6	10	8	82		
作業量	2,600	470	4,460	7,530	7,790	5,420	2,165	4,470	4,815	2,070			2,880	3,630	5,970	4,050	43,240		
耕耘面積 坪	17,000	25,000		42,000	8,000								33,000				41,000		

b. D-50型 (553号車) 月別稼働状況並びに燃料油脂消費量実績調査表

調査機械の型式 名称		小松D-50型水密アングルドーザー (553)							
納入年月日		昭和28年10月1日							
作業開始日		昭和28年10月2日							
年次別		昭和28年度							
月別		10	11	12	1	2	3	計又は平均	
全日数		29	30	31	31	28	31	180	
運転日数		23	9	4	21	14	22	93	
整備及修理日数		1	4	19	5	6	5	40	
休車日数		4	12	4	2	5	2	29	
公休日数		1	5	4	3	3	2	18	
稼働日数率 %		79.3	30.0	12.9	67.7	50.0	70.9	51.7	
整備日数率 %		3.43	13.3	61.2	16.1	21.4	16.1	22.2	
絶対稼働日数率 %		82.2	36.0	14.8	75.0	56.0	75.8	56.6	
時	実動	削土	126— 30	60— 30	16	114— 30	51	112— 30	48.3
		耕耘	—	—	—	—	—	—	—
		計	126— 30	60— 30	16	114— 30	51	112— 30	48.3
間	整備	毎日整備	39	15	5	25	17	24	125
		修理	6	24	114	30	36	30	240
		計	45	39	119	55	53	54	365
1日当り運転時間		5— 11	7— 00	4— 00	5— 50	4— 10	5— 10	5— 0	
1日当り毎日整備時間		1— 20	1— 30	1— 30	1— 20	1— 20	1— 10	1— 20	
燃料油脂消費量	整油 (l)		1,000	500	150	1,000	450	1,000	4,100
	ガソリン (l)		80	40	20	75	40	80	335
	モビール (l)		100	50	15	100	50	100	415
	ギヤ油 (l)		20	10	3	20	10	20	83
	グリス (kg)		15	8	2	15	7	15	62
作業量	削土量 m ³		5,315	8,025	800	5,725	2,800	5,180	22,845
	耕耘 坪		—	—	—	—	—	—	—

C. 395号車の主なる事故、故障等とこれらに対する修理、処置調査表

事故、故障の発生年月日	同上発生場所	事故・故障の顛末	事故、故障に対する顛末処置
昭27 11.27	大崎町	耕耘作業中(5mディスクハロー) 陥没於鯨漁場	田原町より第一なぎさ丸にてBBIV98廻航引出救出に成功
12末	田原町	機関定期整備(実働約300時間)	バルブ摺合、ノズル交換調節、滑油交換、その他(於現場倉庫10日間)
昭28 2.13	〃	削土作業中陥没、冠水 於大州崎中間部	救出車間に合わず冠水(電装品取付) BBIV98にその夜汐にて引出す。機関総分解、洗滌修理(於現場倉庫 10日間)
3.6	〃	噴射ポンプ故障(三号耕耘のため出航直前)	プランジヤースプリング交換各種調整修理(於中山工場4日間)
4.10	前芝村	懸架補助ばね吊ポート切損、履帯弛緩、その他	吊ポート交換、Uポート交換、履帯一組削減、バルブ摺合、後部ウインチ整形(於中山12日)
4.26	老津村	作濠作業施行中陥没 於旧航空隊運河	中山よりBBIV98降送冠水寸前救出に成功
7.6	前芝村	下部転輪(定6台6) 内部破損(東京小松加藤氏調査)	油止輪及同抑え、セットポート交換し於三谷水試(2日間)
7.19	三谷町	足廻り定期整備(附機関部)(実働約900時間)	上下転輪、誘導輪全分解修理、各部潤滑油入替、バルブ摺合、その他(於水試13日)
8.16	〃	履帯交換(二組削減、尙弛緩のため)	新品履帯到着組立終了時交換履き替える(於水試) これまでに3組削減
9.25	吉田町	13号台風に見舞われるも高い堤防上にいたため奇蹟的に難を免れる	但し電装品は塩出しオーバーホール
11.4	高浜町	始動機関マグネット不良	着磁ポイント磨オーバーホール
11.30		機関伝導、操縦、足廻り各装置定期整備(これまでの実働約1,500時間)	機関部(リング替クランクメタル替オーバーホール) 伝導部(各ライニング替シール全替オーバーホール) 操縦部(各スプリングパツキン替オーバーホール) 足廻り(各シール、ブツシュ、シャフト替オーバーホール) 他(於中山、昭19.1.30) 出庫此間修理施行日数約50日)
		尙作動油可撓管パンク5回 プラグ替 } 数回 噴射ポンプ調整、修理数回 ノズル替 } 回数 キヤタピラ外れ修理十数回 等々の修理を 各部パツキン切れ 施行している 下部ローラー取付ボルト交換数回 AR5-6パツアリー新品と交換(昭29.3) マグネット修理3回	〔備考〕D-50アングルドーザーを水密ブルとするには I. 下部転輪、誘導輪を側面式油止型式に改良 II. 履帯も Shol と link との組立式に改良の必要を感じ、本県では上述の改良型式に夫々交換する。

別表 2

別表 3

c. B B IV—135号車別稼働状況並びに燃料油脂消費量実績調査表

調査機械の型式、名称		三菱B B IV型水密アングルドーザー (135)							
納入年月日		昭和28年8月31日							
作業開始年月日		昭和28年9月5日							
年次別		昭和28年度							
月別		9	10	11	12	1	2	3	計又は平均
全日数		30	31	30	31	31	28	31	212
運転日数		8		8	4	22	14	21	77
整備又は修理日数		6	31	5	19	4	6	5	76
休車日数		11		12	4	2	5	3	37
公休日数		5	第十三号台風により冠水修理	5	4	3	3	2	22
稼働日数率 %		26.6		26.7	12.9	70.9	50.0	67.7	42.5
整備日数率 %		20.0		16.6	61.2	12.9	21.4	16.1	24.7
絶対稼働日数率 %		32.0		32.0	14.8	78.5	56.0	72.4	47.6
時	実動	削土	9—30	40—30	13—	86—30	62—30	120—	342—
		耕耘	13—	—	3—	13—30	10—	10—30	50—
		計	22—30	40—30	16—	100—	72—30	130—30	392—
間	整備	毎日整備	14—	14—	5—	24—	14—	23—	94—
		修理	36—	30—	114—	24—	36—	30—	270—
		計	50—	44—	119—	48—	50—	53—	364—
1日当り運転時間		3—20	5—	4—00	5—00	5—40	6—20	5—00	
1日当り毎日整備時間		1—20	1—30	1—35	1—10	1—20	1—10	1—40	
燃料、油脂消費量	軽油 (l)		230	400	160	1,000	720	1,300	3,860
	ガソリン (l)		—	—	—	—	—	—	—
	モビール (l)		20	40	15	100	70	120	365
	ギヤ油 (l)		5	10	5	20	15	25	80
	グリス (kg)		5	8	3	15	10	18	59
作業量	削土 m ³		570	2,430	780	5,160	3,750	6,690	46,380
	耕耘面積 坪		48,000	—	7,640	5,000	37,150	25,375	123,165

d. B B W-98号車の主なる事故、故障等とこれらに対する修理処調整表

事故発生の年月日	発生の場所	事故の概要	事故の経過	故障の箇所	事故の処置
昭27.11	田原町	下部ローラー左一番不良(内部破損、各部異状磨損)			D.R組立品、購入、取替(中外商工より)
12.末	〃	機関定期整備(実働約300時間)			バルブ摺合、ノズル交換調節、滑油入替、その他(現場倉庫にて10日間)
昭28.1.21	大崎町	主クラッチ不良(摩擦板磨損)			磨擦板張替(中山工場にて)
2.4	〃	ウインチプレキバンド破損(註同日104号車沈没、於吉前町沖)			バンド製作 表張張替(於中山2日間)
2.11	牟呂町	燃料タンク亀裂			ガス溶接、当板補強修理(於中山2日間)
3.24	大崎町	排土板支持枠亀裂			電気溶接、当板補強(於竹沢7日間)その他
4.3	〃	主クラッチ不調			磨擦板張替(於中山2日間)
4.24	前芝村	履帯弛緩(調節限度以上)			リンクガス切断一組削減(於中山4日間)
4.29	大崎町	耕転作業中陥没(5mハロー) 於長松漁場			老津よりD-50395陸送救出引出成功する。
5.13	田原町	誘導軸(左) 凹型フランジ割脱			そのまま作業続行
6.10	三谷町	足廻り定期整備(附機関部) 実働約900時間			上、下部ローラー誘導輪取外分解修理、各部潤滑油入替、バルブ摺合ウインチナドラム交換、噴射ポンプ修理、電装補器外点検、その他(於水試倉庫33日間) 上部ローラー改造のため長くかかる。
9.1	大塚村	上部ローラー取付台補強(事故防止のためNo.1048月末施行済)			上部ローラー取付台、スター取付補強、燃料タンク溶接(於中山6日間)
9.20	老津町	ケーシングカバ-磨り減り修理註(21/9)			カバ-肉盛り修理(於中山2日間)
9.25	大崎町	巨航空隊守衛所前にて履帯一杯迄冠水25.9於三谷10413号台風冠水シャ-ト拖いの為殆んど難なし、但し電装品は全部オーバーホール塩出しする。			翌日引上成功(R B W98にて) 註(21/B B N135吉田にて耕転中陥没冠水、25.9 R B W98陥没冠水9のD-50395) (救出作業、どうしても引出せず、13号台風に会う)
10.30	田原町	噴射ポンプ故障、下部ローラー(左5番)鏝切損			噴射ポンプフランジヤマスフランジ替調整修理、D.Rそのまま作業施工(於中山2日)
12.1		機関、伝導、足廻り、足廻り着装置定期整備(これまででの実働約1,400時間)			機関部(リング替クラッキングノズル替オーバーホール) 伝導部(各ライニコング替、各シ-ル全替オーバーホール) 履帯部(各スプリング、パツキコン替オーバーホール) 足廻り(各シ-ルフルッシュ、各オーバーホール) 他(於中山昭29.2.19出庫此間修理施行日数約40日)
		尙ワイヤ切損 約7回 燃料パイプ洩 約5回 ウインチプレキバンドフライニコング替 3回 ウインチオイルシ-ル替 2回 噴射ポンプ調整修理数回 キママタピラ外れ修理数回 油空冷器油洩れ 各部パツキコン切れ			昭28.12.0日履帯新品と履帯えりコング修理(ピン、ボス全部交換)にこれまでに2組削減 昭28.7.5誘導輪新品と交換(凸型とフレ-ム) 漬滑油切換器 同滑油器分解修理等 三型リレ-修理、パツアテリ-ケース替(補充電数回)等々の修理調整を施行している。

八、東三地区 漁場別稼動状況及び月別事業実績表

NO	施行漁場	使用機名	東 三 地 区								
			4 月			5 月			6 月		
			実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量	
容 積	坪	容 積		坪	容 積		坪				
1	渥美郡 田原 (大州崎) 老津 (長松)	BBIV. BW (104)	(17) 1-28	キ660 m ³ 削6,030		(9) 11-19	m ³ 削2,700			m ³	
		BBIV. BS (98)	(2) 9-12	削430		(19) 5-31	キ300 削5,500		(3) 2-6	削900	
		BBIV. BS (135)									
		D-50 (395)	(9) 21-29	露4,290		(7) 1-8	露810 削2,250				
		D-50 (553)									
	計	28	11,410		35	11,560		3	900		
2	豊橋市 大崎 牟呂 渡津	BBIV. BS (104)	(3) 18-30	露400	ア5,000 耕2,000	(1) 1	露100 削1,000				
		BBIV. BS (98)	(14) 1-29	削1,050	ア53,500 耕65,000	(1) 1-4	削1,040 耕30,000				
		計	17	1,450	125,500	5	2,140	30,000			
3	宝飯郡 東部 前芝五ヶ村 西浜漁場	BBIV. BW (104)	(2) 21-25	露700		(7) 25-31	削1,620		(16) 5-50	キ1,505 削660	
		BBIV. BS (98)									
		BBIV. BS (135)									
		D-50 (395)	(6) 1-7	削2,220					(15) 10-50	削2,020	ア17,000
		D-50 (553)									
	計	8	2,920		7	1,620		31	4,135	17,000	
4	宝飯郡 西部 御津 大塚 赤根 塩津	BBIV. BW (104)									
		BBIV. BS (98)									
		D-50 (395)				(9) 13-31	削480 露1,020	5,000	(4) 1-4	削520	ア7,000
		D-50 (553)									
	計				9	1,500	5,000	7	520	7,000	
旭町 (日長)	D-50 (395)										
高浜	D-50 (395)										
	合 計	53	15,780	125,500	56	16,220	35,000	38	5,605	24,000	

(削)削土、(濡)作濡、(キ)キヤリ、(ハ)ハロー(ブ)プラウ(耕)耕耘

東 三 地 区											
7 月			8 月			9 月			10 月		
実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量	
	容 量	坪		容 積	坪		容 積	坪		容 積	坪
	m ³						m ³				
			(7) 10-23	削2,580		(10) 8-19	削2,940		(11) 18-31	削4,200	
									(16) 4-24	削6,540	
			7	2,500		(10)	2,940		27	10,740	
(8) 24-31	削2,646		(15) 1-24	削2,880					(11) 6-17	3,690	
8	2,646		15	2,880					11	3,690	
(18) 1-31	キ 660 削3,810		(26) 3-30	キ 975 削3,840		(8) 12-20	削2,070				
(2) 14-23	削 600										
(3) 1-3	キ 7,000 ハ 4,000		(15) 2-16	削3,325		(4) 18-21	削 350	ハ 30,000			
									(14) 2-20	削3,600	
23	5,070	11,000	41	3,140		12	2,420	30,000	14	3,600	
(7) 10-17	削1,140		(6) 25-30	削1,800							
(8) 10-17	削1,150		(14) 18-29	削2,450					(5) 9-13	削1,615	
									5	1,615	
15	2,290		20	4,250							
			(1) 3	削 100		(15) 1-15	削3,175	ハ 8,250			
									(6) 25-31	削2,850	
46	10,006	11,000	34	17,950		37	3,535	38,250	63	22,525	

東 三 地 区

11 月			12 月			1 月			2 月		
実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量	
	容 積	坪		容 積	坪		容 積	坪		容 積	坪
	m ³			m ³			m ³		(14) 7-25	m ³	
(10) 1-10	削3,690									削4,500	
			(3) 29-31	削 780		(13) 3-31	削4,140		(4) 1-4	削1,710	
			(3) 29-31	削 650		(13) 3-31	削3,450		(4) 1-4	1,250	
10	3,690		6	1,430		26	7,590		22	7,460	
						(14) 13-31	削3,630		(3) 1-3	削1,470	
(13) 12-30	削5,280								(6) 21-28	削2,700	
15	5,280					14	3,630		9	4,170	
						(11) 10-22	削1,020	ア5,000			
(8) 13-30	削3,200								(19) 2-28	削3,475	
						(2) 10-11	削 250				
8	2,200					13	1,270	5,000	19	3,475	
			(15) 6-24	削2,890	ハ33,000						
(12) 9-26	削4,590								(10) 15-28	削2,995	
						(18) 12-19	削2,025				
12	4,590		15	2,880	33,000		2,025		10	2,995	
(4) 1-4	削1,170										
49	16,930		21	4,310	33,000	61	14,515	5,000	60	18,100	

東 三 地 区

3 月			合 計		
実作業 日 数	作 業 量		実作業 日 数	容 積	坪
	容 積	坪			
(4) 7-10	m ³		44	17,310	
			62	20,540	
			20	6,630	
			32	13,890	
			20	5,350	
4	3,423		178	(10万坪) 63,720	
(10) 12-28		入52,500	31	6,600	59,500
(6) 1-17	削2,640		79	21,926	148,500
16	2,640	52,500	110	(20万坪) 28,526	(25万坪) 208,000
(20) 5-31	削4,530		97	20,370	
			2	600	
			11	1,020	5,000
			70	13,590	58,000
			16	3,850	
20	4,530		196	(25万坪) 39,430	(25万坪) 63,000
			15	2,880	33,000
			13	2,940	
(30) 1-31	削7,875		37	21,080	12,000
(4) 28-51	削1,175		17	4,315	
34	9,050		132	(30万坪) 31,715	(13万坪) 45,000
			16	(3万坪) 3,275	(2万坪) 8,250
			10	4,050	
74	19,640	52,500	642	170,716	324,250

ニ、西三河地区漁場別稼動状況及び月別事業実績表

(削) 削土、(露) 作露 (キ) キヤリ (ハ) ハロー (プ) プラウ (耕) 耕耘

施行漁場	使用機名	西 三 河 地 区								
		9 月			10 月			11 月		
		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量	
容 積	坪		容 積	坪		容 積	坪			
衣 崎	BBIV (135)	(9) 5-20	m ³ 570	48,000		m ³		(2) 23-24	m ³ 540	
	D-50 (553)						(1) 23	250		
	計	9	570	48,000			3	790		
吉 田	BBIV (135)				(1) 23	100		(7) 3-19	1,890	
	D-50 (553)						(8) 2-26	2,775		
	計						15	4,665		
合 計		9	570	48,000	1	100	18	5,455		

西 三 河 地 区														
12 月			1 月			2 月			3 月			合 計		
実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量		実作業 日数	作 業 量	
	容 積	坪		容 積	坪		容 積	坪		容 積	坪		容 積	坪
(1) 23	m ³	プ 7,640				(10) 削 m ³ プ 13-14 2,040	37,150		(10) 削 m ³ 2-31 3,930			32	m ³ 7,080	92,790
(1) 23	削 150					(10) 削 13-24 1,550			(4) 削 1-4 830			16	2,780	
2	150	7,640				20	3,590	37,150	14	4,760		48	9,860	92,790
									(12) 露 1,680 耕 5-23 削 1,080 25,375			20	4,750	25,375
									(14) 露 540 5-25 削 3,175			22	6,490	
									26	6,475	25,375	42	11,240	25,375
2	削 150	7,640				20	3,590	37,150	40	11,235	25,375	90	(2万坪) m ³ 21,100	(30万坪) m ³ 118,165

ホ、総合経費調査表
 a. 昭和27年度土工機別総合経費調査表（自9月至3月総計206日間）

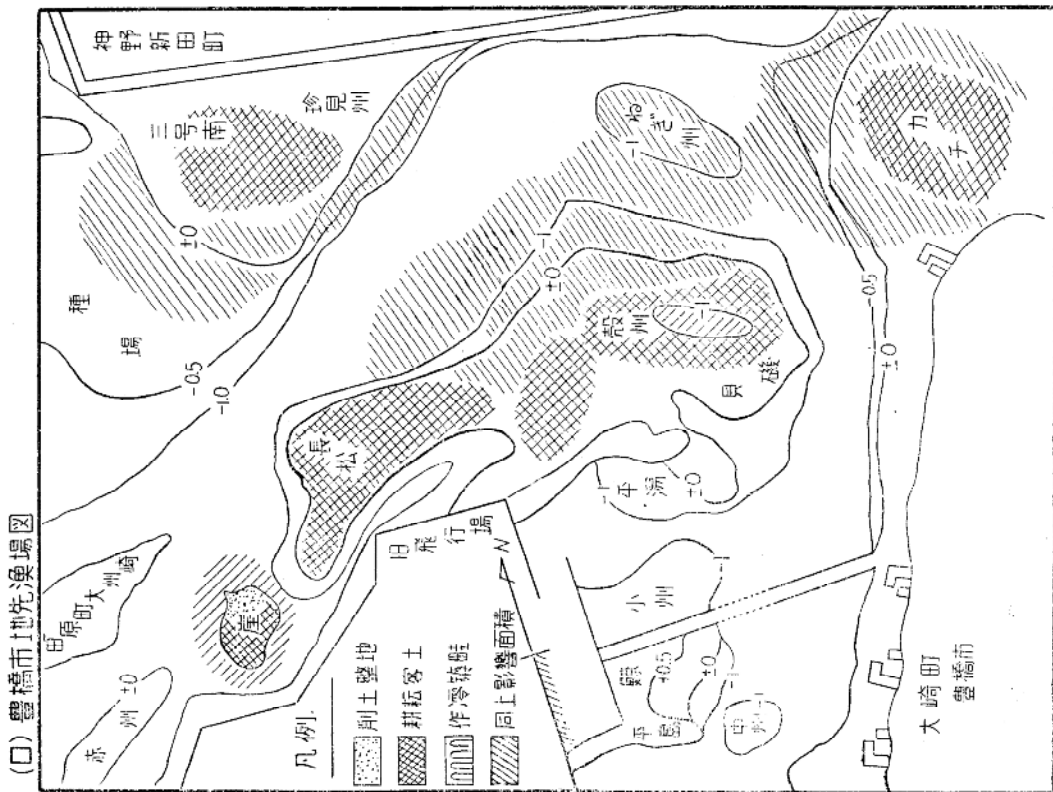
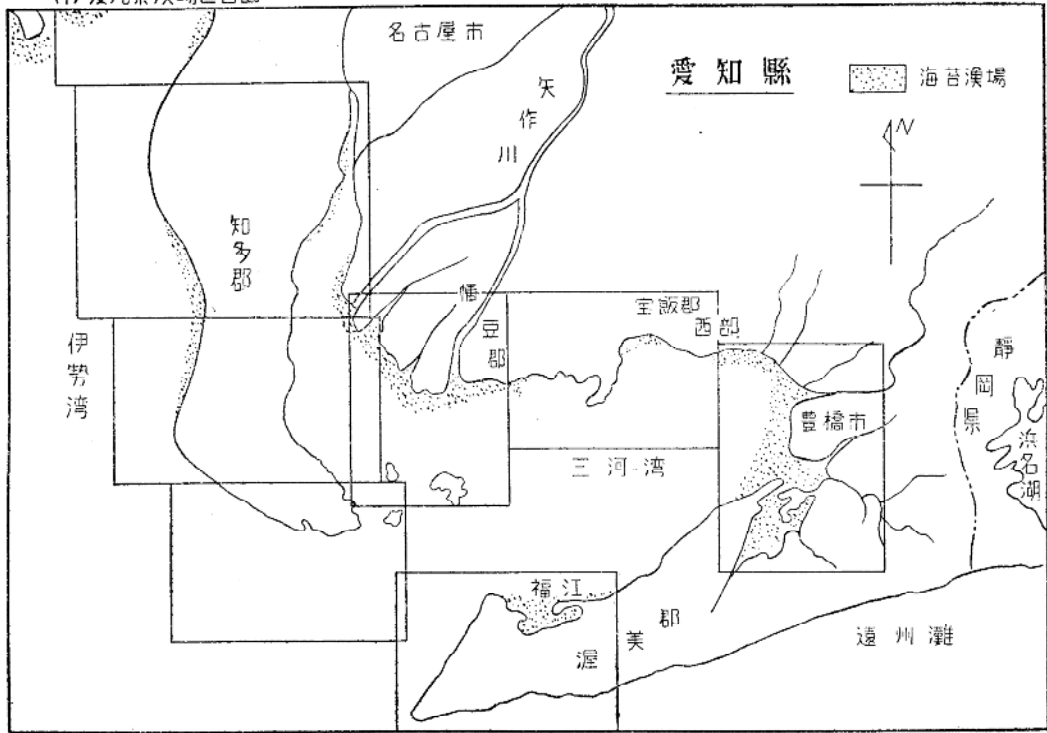
機 項	種 目	単 価 円	B B IV 98		D-50 395		R B I V 104		合 計		備 考
			所要量	金額 円	所要量	金額 円	所要量	金額 円	所要量	金額 円	
燃料油 油脂消費量	軽油 I	18	6,430	115,740	4,200	75,600	2,320	41,760	12,950	233,100	一号軽油
	ガソリン I	35			9,275				260	9,275	自動車揮発油
	モビール I	55	540	29,700	355	19,525	205	11,275	1,100	60,500	350#ディーゼル油
	ギヤ油 I	70	80	5,600	80	5,600	50	3,500	210	14,700	600#シリンダ油
	グリス kg	80	45	3,600	45	3,600	19	1,520	109	8,720	250#カッツブグリス
ウエス 貫	130	10	1,300	12	1,560	8	1,040	30	3,900	脱脂ウエス	
人件費	運転士	400	202	80,800	206	82,400	82	32,800	490	196,000	
小	助手	300	404	121,200	412	123,600	164	49,200	980	294,000	
	計			357,940		321,160		141,095		820,195	
運	転費			357,940		321,160		141,095		820,195	
修	理費			270,000		180,000		150,000		600,000	
輸	送費			62,800		50,000		29,000		141,800	
庶	務費			136,000		110,000		64,000		310,000	
総	計			826,740		661,160		384,095		1,871,995	
単位当り	総合経費			1,238		1,093		16,55		1,244	1時間当り経費
削	時 間			627.5		549		212.5		1,389	
土	土 量 m ³			29.125		19.924		7.530		56.579	
耕	時 間			40.5		56		20		116.5	
耘	面 積 坪			80.200		94.000		42.000		216.200	
作	業 実 動			668		605		232.5		1,505.5	
	日 数			132		127		50		309	

b. 昭和28年度土工機別総合経費調査表（自4月至3月）

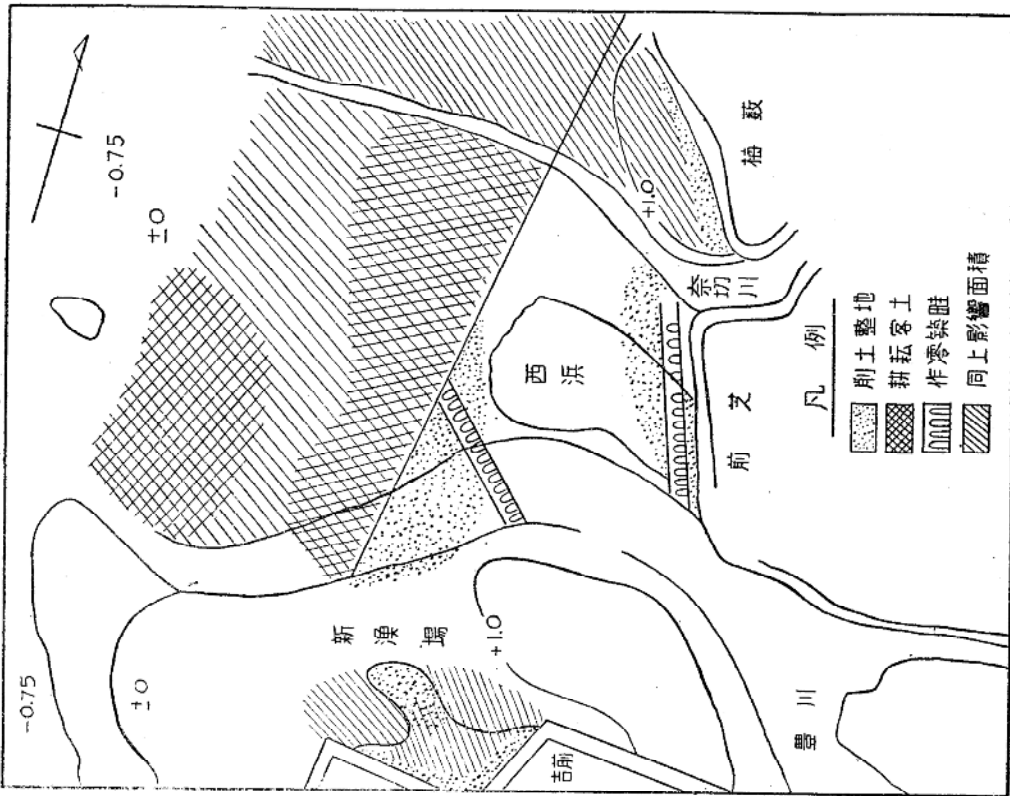
機 項	種 目	単 価 円	BBIV 98		D-50 395		BBIV 104	
			所 要 量	金 額	所 要 量	金 額	所 要 量	金 額
燃 料 油 能 消 費 量	軽油 l	18	9,220	165,960	8,470	152,460	7,770	139,860
	ガソリン l	35	—	—	595	20,825	—	—
	モビール l	55	880	48,400	820	45,100	740	40,700
	ギヤ油 l	70	115	80,500	150	10,500	101	7,070
	グリス kg	80	100	8,000	88	7,040	82	6,560
ウエス 貫		130	18	2,340	16	2,080	22	2,860
人 件 費	運 転 士	400	303	121,200	303	121,200	304	121,600
	助 手 他	300	606	181,800	606	181,800	608	182,400
小 計				535,750		541,005		501,050
運 転 費				535,750		541,005		501,050
修 繕 費	施行費			1,045,000		720,000		590,000
	部品代 ETC			428,000		509,000		428,000
輸 送 費	積載船			100,000		77,000		51,000
庶 務 費	関係者 ETC			210,000		150,000		127,000
総 計				2,318,750		1,997,005		1,697,050
単位当り 総合経費				2,510		1,940		2,180
削 土	時 間			869—30		971		775—30
	土 量 m ³			50,592		55,885		43,240
耕 耘	時 間			54—00		59—30		—
	面 積 坪			148,500		80,250		—
作 業 実 動	時 間			923—30		1,030—30		775—30
	日 数			180		203		168

D-50 553		BBIV 135		合 計		備 考
所要量	金 額	所要量	金 額	所要量	金 額	
4,100	73,800	3,860	69,780	33,420	601,580	一号軽油
335	11,725	—	—	930	32,550	自動車揮発油
415	22,825	365	20,075	3,220	177,100	350#ディーゼル油
83	5,815	80	5,600	529	37,030	600#シリンダー油
62	4,960	59	4,720	391	31,280	250#カップグリス
8	1,040	12	1,560	76	9,880	脱脂ウエス
180	72,000	212	84,800	1,302	520,800	
360	108,000	424	127,200	2,604	781,200	
	300,160		313,435		2,191,400	
300,160		313,435		2,191,400		
45,000		110,000		2,510,000		{ BBIV1,284,000 { D-501,018,000 予備履帯及予備車輪
509,000		428,000		2,302,000		
15,000		10,000		253,000		
87,000		70,000		644,000		
956,160		931,435		7,900,400		
1,980		2,370		2,190		1時間当り 総合経費
481		342		3,439		
2,845		40,380		219,942		
—		50		163—30		
—		123,165		351,915		
481		392		3,602—30		
93		77		721		

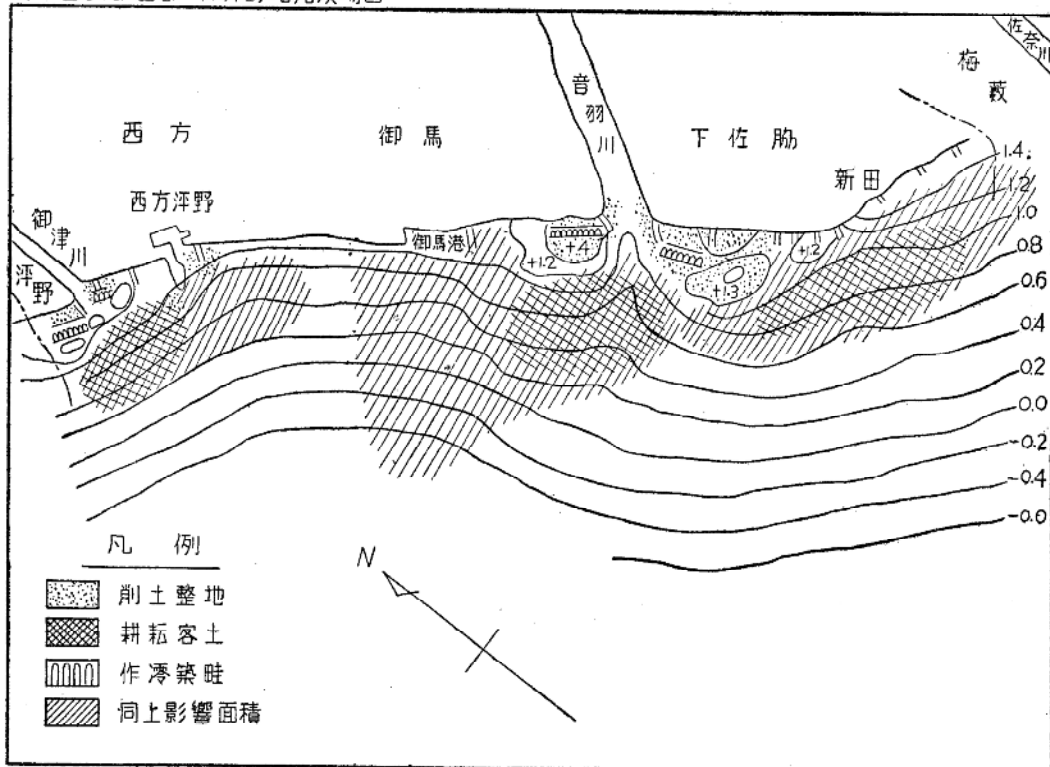
(3) 昭和28年度浅海内湾南発事業施行図
 (4) 愛知県渚場区画図



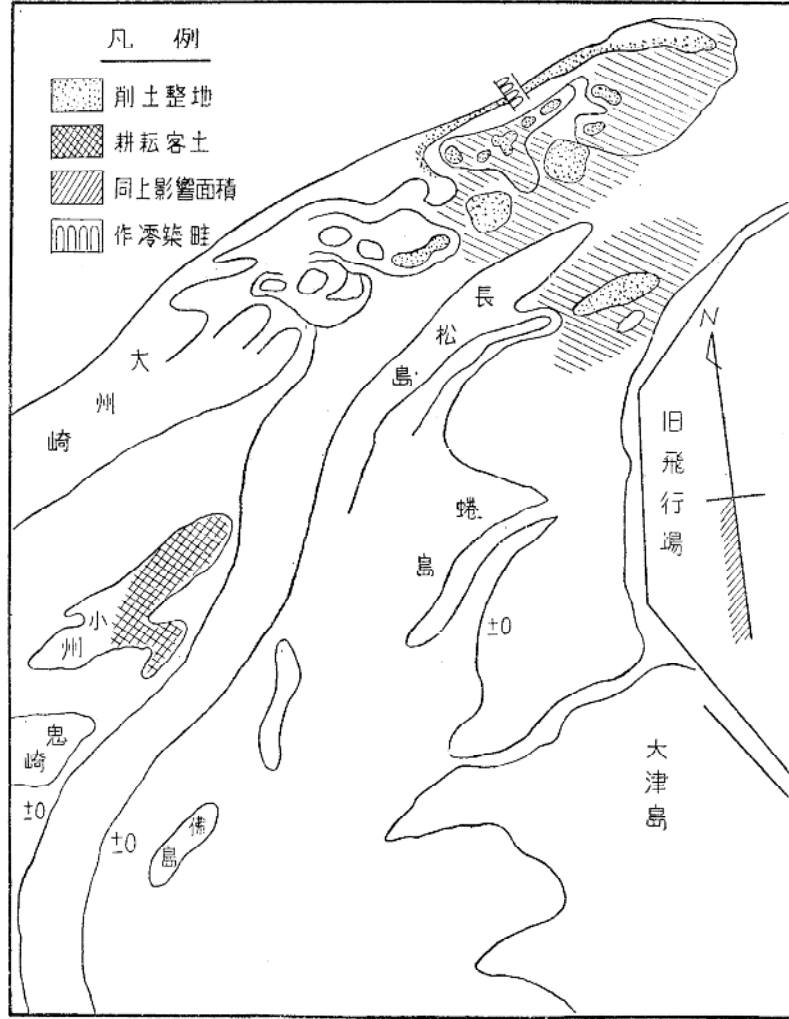
(一) 宝飯郡東部 前芝五ヶ村溪場図



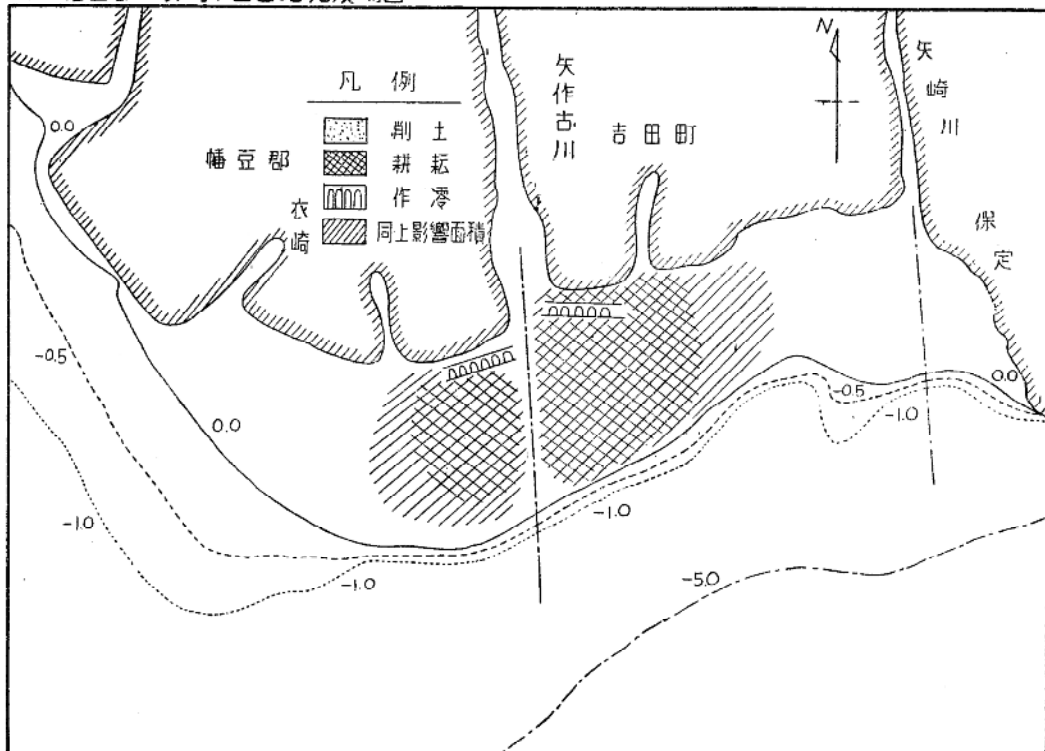
(二) 宝飯郡西部 御津町地先溪場図



(ホ) 渥美郡、田原町大州崎地先澳場図



(ハ) 幡豆郡、衣崎、吉田地先澳場図



D. 浅海内湾開発事業効果判定調査

本調査は内湾開発事業就中削土効果に関するもので、開発事業中地盤高の調整に関する基礎資料を得るために行うものである。そのため本調査を行う前に先ず設計の基礎的な問題を論じて見る。

(1) 対象海域

これは産業的に利用されていない地域と低位生産性漁場とであるが、この原因は次の諸条件に基づくと考えて実施したものである。

(2) 要開発海域の由因

イ、地盤高の不適（削土）

内湾浅海は干潟であれそれ以深の海域であれ、地盤厚によつて、その生産が規正される。地盤高の基準のとり方は多様であるが、この場合次の三つが基準になるかと考えられる。

- a. 平均潮位
- b. 上下弦平均干潮位
- c. 朔望平均干潮位

この目安を取つた場合、あさり稚貝の発生場は b. c. 間であり、育成場は b 以下深所までに及ぶが、本県の場合 b から 40cm 以上低い事が望ましい。この点にそつて削土を行う事とした。

別項田原湾大州崎はこの土工を行い大約 6 万坪の漁場を造成、あさり種貝を放養してその成績良好である。

ロ、水塊の安定性（作濞築畦）

これは浅海干潟の各点の水が他の地点の水と交り合う度合をいうものである。これはその場の潮流ベクトル（太陰一日間について）の総和（定恒流）の大小と干潟の地盤面の凹凸の工合によつて規正されると同時にその場の季節風に対する向等の地理的条件が含まれる。

実際多くの漁場は岸寄りの部分が荒廃し、毎年沖へ沖へと出ている。これは干潟は常に成長するものであると同時に、更に利用のため何らかの施設を設けるのでいよいよ地盤の平坦化が起り、この平坦化のためにこの区域の水が（特に干満差の少い小潮時等）全体として沖へ張り出したり、岸へ圧縮されたりとの運動のみに偏し、各点の水が水平的にも、垂直的にも交互に入り混ることが少く、潟池的に生産が低下するからと考えることが出来る。

これよりして、この点から見た開発の設計は、落潮により、その場の一部水塊にベクトルを与え、各点の序列を乱す事にあり、作濞、築畦によつている。

この実施成績は例えば前芝地先においてごく岸部護岸に平行に巾 20m、深さ朔望平均干潮位程度の作濞（豊川から奈切川に達する）を行い。又一方干潟の中央部に巾 15m、高さ平均地盤より 80cm 程度の築畦 2～3 本を行つた。かくして旧来沖、岸の距離 330 間ののり漁場を 550 間程度に拡張し行使したが、その成績は岸方が特に優良であつた。豊橋市吉前漁場もこの意図で開発し大体 50,000 坪の漁場を増成し得た。

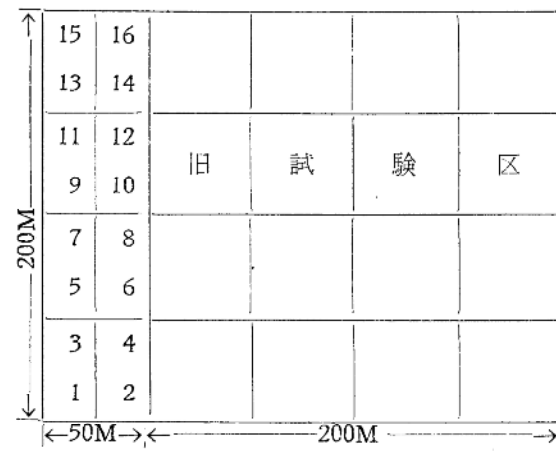
はその儘の計画であるので、その境界を真中にして南北に試験区を設定した。西はすぐのり場・場に続くので東西には巾を取らず結局南北200m東西50mとし、後載の生物並びに底質調査は16区画の各中心(st.)において実施した。

大崎の試験区は区画の範囲と生物相の単純さを勘案してst.の数を粗にした。

試験区

位置	調査区域	試験区
愛知県宝飯郡前芝村地先	本年度整地作渚区域20m ²	調査区域中1万m ²
〃 豊橋市大崎町地先	〃 旧飛行場北側整地作渚区域10m ²	〃

前芝試験区



大崎試験区

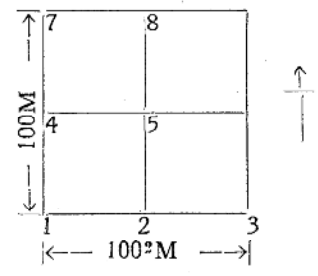


Fig1 前芝試験区

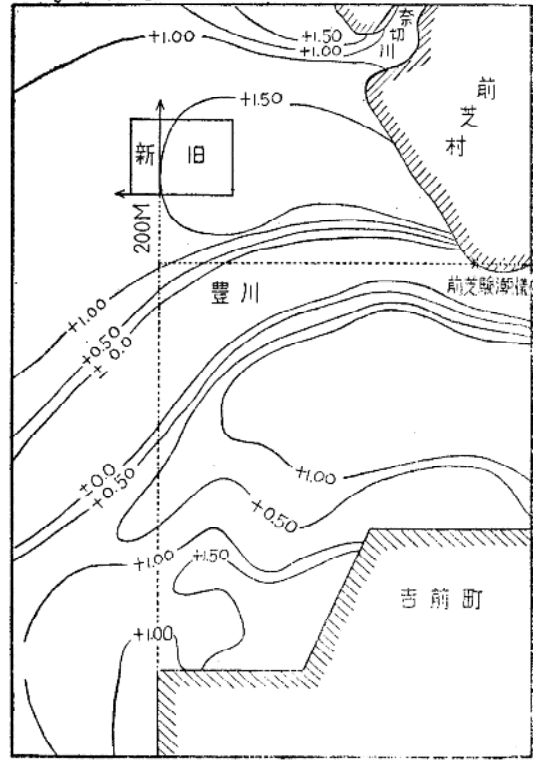
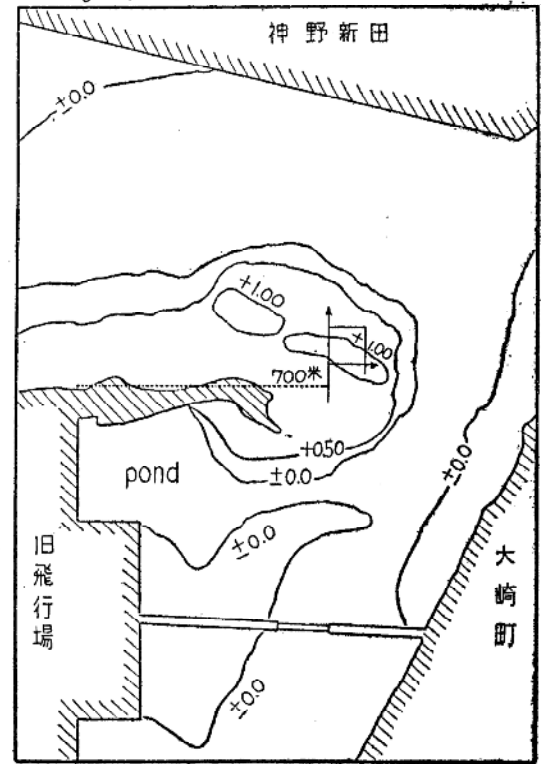


Fig2 大崎試験区



ハ、還元層と耕耘

還元物質の沈積により、生産低下をきたしていると思われる漁場がある。浅海では、陸水と異りPH価が高いためか生産低下は副次的に思われる。これは機械耕耘することによつて酸化し得るかと考えて、施行したのであるが、今までのところ大体不可能である。資料として未だ挙げ得ないが、甚だしい地域では表面下5mm程度の所から、還元層を形造つているが、この地盤を深度150mmに耕耘した場合は（上下転換）60日を経過しても漸く表面5mm程度が酸化されるに過ぎない。又このような地域は耕耘による干潟の硬度の緩み方は数カ月間持続する。耕耘の予想外の作用はその海域の水質が稍長期に亘り変化する事である。この事はのり養殖業にとつて、人工施肥の一方方法として直接考えなければならない事である。

開発作業としての耕耘が浅海増殖に意味するものは、

- a. 底質の硬度
- b. 表面腐蝕物質の増加
- c. 小規模な畦、濠
- d. 水質変化

の諸問題であると考えられる。

但し、短期間に小許の浮泥の沈積等により汚染した干潟により、美麗になし得る処である。例えば牟呂の、のり粗朶孢子場の如き、その建込みにより、穢汚した後は、摘み取り場としては例年低位生産漁場であるとして放置されていたが、耕耘する事によつてその後普通漁場として行使する事を得その成績顕著である。

(3) 結 言

本県の内湾開発は以上の考えに基いて施行して来たところで、その結果、広範囲の漁場を造成し得たのであるが、諸種由因は重疊し、更にその影響範囲は極めて広い。

したがつて開発の土工効果の認定を従来の坪判的生産調査、あるいは底質調査によつて測る事は容易でない。今後数年に亘つて調査続行の要があるが、更に生産増を計る事は急務である。

今までのところ、それぞれの対象海域に対する具体的設計方法を方式化する事は困難のようである。

以上のような考え方を基礎にして本年度調査は昨年度同様、調査連絡要項に基いて行つた。

昭和27年度に宝飯郡前芝村地区及び豊橋市大崎町地先に試験区を設定して中間報告記述の通り事前調査を施行し、昭和28年度事後調査を実施する予定であつたが事業の都合上前芝地区は削土範囲の変更をきたし、大崎地区は削土不能が判明したので、28年度は新に試験区を設定しなおして、再び予備調査を行い、7～8月前芝地区の削土を行つた。9～10月事後調査を行うべく準備中の処、台風13号の災害に遭い全面的に支障を来たした。

イ、試験区の設定

前年と同区域で行つたものであるが、前芝地区の試験区は事業計画の変更に伴い試験区も移動したのであるが、これは整地作濠が、st. 7、8、9、10を境として南は5寸削り、北

ロ、環境要因調査

a. 等深線の決定

浅海干潟測量として、本年度事業施行地域を、地元測量士に請負わせ実施した。その概要は次の通りである。

1. 測量区域並びに面積

地 域	面 積 (万坪)
宝飯郡塩津村地先	40
幡豆郡吉田町地先	100
幡豆郡一色町衣崎地先	60
渥美郡福江湾一帯	100

2. 測量の種類

前年度に同じ。

3. 測量図の調整

前年度に同じ。

b. 水塊の移動

1. 調査概要

これは、漁場における潮の疎通の度合を調査するもので、本年度は、開発事業の性格よりして、前後の比較が容易であると思われる塩津村地先を選んだ。ここは、漁場が入江になっているため、外部との流通が悪く、水の安定が良く、漁場価値が低い。これを破るためには Fig 3 のように、離島に繋がる州の削土を行うわけである。

測流調査は、二回行つたが、第一回目は強風のため、資料化し得なかつた。調査要領は次の通りである。

月 日	天 候	気 温	風 向 力	潮 候	調 査 用	
					人 員	船 数
6.10	曇	25.0	SE2	小 潮	6	3

2. 調査結果

Fig 3 より見ると、合成流は、いずれも岸に向っているが、これは風波の影響が多少あるにせよ、地形の変化より起る局部的な、渦流ではないかと思われる。

c. 底質調査

生物調査に附随して行い、常法により処理し、更に次表のように取纏め、表に記載した。